



# 全国から192名が 参加して支部代 開く

鳥取・米子で 介護保険と組織活動を重点に

口の字型に着席しての支部代。手前が議長・理事席。  
立っているのは報告する勝田副代表

2013年度支部代表者会議（支部代）が、10月12日午後1時から5時まで鳥取県米子市の米子コンベンションセンター内の国際会議場で開催されました。これには、46支部代表と支部準備会である沖縄県も含むすべての都道府県からの参加者と、理事、職員ら合わせて192名の会員が参加しました。

吉野立同県支部代表が歓迎のあいさつ。議長は、黒松基子・島根、妻井令三・岡山の両県支部代表が務めました。

開会あいさつに立った高見国生代表理事は、①社会保険は「自助の共同化」という国民会議報告の危険性を考える ②「家族の会」の魅力をあらためて考える ③認知症の理解をもっと広めることを考える（名古屋地裁判決を例に取り上げて） ④生き生きと楽しい活動を考える—そんな支部代にしようと述べました。

議事は、介護保険制度改善に向けてと、組織・活動のすすめ方を重要な議題として進められました。前者については、勝田登志子副代表が社会保障審議会介護保険部会での動きを報告、田部井康夫介護保険・社会保障専門委員長が今日の動きに対する「家族の会」の考えと今後の取り組みについて提案しました。後者については、関靖組織・活動専門委員長が、6月の総会での議論を発展さ



開会あいさつをする  
高見代表



オブザーバー席の人たち。前列は京都府、大阪府、岡山県支部の人たち

せ長期的視野を持った活動を展開しようと提案しました。

この二つの議題について、計1時間あまりをかけて議論。延べ14名の代表等から発言があり、理事からの答弁も含めて承認されました。

## 各専門委員長から報告

休憩後は、専門委員会報告から始まりました。人権擁護、本人・若年、会報・HP・教育、国際交流、調査・研究の各委員長等がそれぞれの取り組みを報告しました。また、杉山孝博副代表が全国を巡回している杉山Dr講座について、勝田副代表が、厚労省認知症対策室から「家族の会」に対して、市町村が認知症対策事業を積極的に推進するように働きかけてほしいとの協力依頼文書があったことを報告しました。

## 来年は青森へ…石戸代表が呼びかけ

事務局からは、理事会が行った予算補正の内容と会計状況、今年のアルツハイマーデーの取り組み、来年度のリフレッシュ旅行事業について報告しました。この中で、認知症の理解・普及のために制作し全国の講演会等で上映されたDVDの上映も行われました。また、来年の11月に全研を開催する青森県から参加した5名を代表して石戸育子支部代表が、記念すべき第30回大会にぜひおいでくださいと呼びかけて大きな拍手を受けました。

最後に、原等子理事がそれまでの議論を踏まえた支部代表者会議アピール案を提案し、全員の拍手で採択されました。



支部代表者会議アピール  
を提案する原理事



来年は青森へ！と呼び  
かける石戸支部代表



厚労省認知症対策室の勝  
又浜子室長からあいさつ  
を受ける

## 会員さん からの お便り



### 経済的虐待を 何とかしたい

山梨県・Tさん 40歳 女

母が脳血管性認知症と診断され、はや2年。共働きする私達にとって、3歳の息子の預け先として実家を頼りにしていたので、わかった時はとてもショックでした。

1年の間、認めたくない気持ちもあり、必要以上に混乱し、仕事にも影響が出るくらいでした。しかし、今となっては、仕事も育児も介護もする団塊ジュニア世代の先駆けとして、自分自身を奮い立たせ、明るく楽しく日々を送っております。幸い、母もケアマネさんや、かかりつけ医の先生のおかげで症状が改善し、要支援1となりました。

しかし、一難去ってまた一難。今は同居する家族からの経済的虐待に困っています。地域包括支援センターにも通告しましたが、暴力がないので緊急度は低く取り扱われ、少しずつ対応しようということになっています。

全国のみなさん、経済的虐待は相談しやすい案件だと思います。周囲で、そのような話を聞いたことがありますか？

### 母を連れて来ましたが…

福岡県・Eさん 40歳 女

64歳の母はアルツハイマー型認知症と診断されて約1ヵ月。父と私でみていますが、元々人の言う事を聞かない性格でしたが、

ますますひどくなっています。

家事全般を全くしません。食事も孫と一緒にだと比較的よく食べますが、父と私では拒否。実家が遠く、父一人ではみきれないので、今は私のところに連れて来ていますが、自宅に帰りたがります。

### 孫にどう話したら いいのか

愛知県・Nさん 74歳 女

76歳の夫は、3年前にアルツハイマー型認知症と診断されました。小学3年と1年の外孫がおります。時々遊びに来るのですが、おじいちゃんの言動がおかしいと感じ始めています。隠しているわけではありませんが…。いつ、どのように話して聞かせたらよいのか悩んでいます。

小学3年の女兒は、この頃ちょっと生意気になってまいりましたので、なおさら心を痛めています。

### お年寄りの世界を 共有してほしい

徳島県・Nさん 女

母は要介護3でグループホームにお世話になっています。施設を訪問して思うことですが、入居されている高齢の方々と同じ時代を共有してくれる人達、また、同じ趣味を共有できる人達が世話に参加してくれたらと願います。

以前、母もそうですが、編み物好きの人が何人かいましたが、職員にその趣味がないと危ないからで片付けられがちです。

入居している方々が編み物のことを正しく話していても、若い男性職員は「何言ってるのやら、さっぱりわからん」と苦笑いでした。その職員さんは、とても優しい人なのですが…。会話をふやすには、やはり交流が大切だと思います。

## デイから 小規模多機能ホームへ

静岡県・Wさん 80歳 女

80歳の夫は10年前に脳梗塞で入院しましたが、後遺症はありませんでした。今年夏まで、脳外科の先生に降圧剤とアリセプトのお薬をいただいていた。

3年前からデイサービスに通いだしましたが、だんだん対応がしきれなくなり、9月にケアマネさんの勧めで、小規模多機能ホームに変わりました。その施設で教えていただき、病院も変わり、やっと専門医にたどりついたところです。

## 特養の入所をあきらめて 小規模多機能ホームへ

宮城県・Nさん 58歳 女

「空きが出た」と施設より連絡があり見学に行きました。特養で生活されている方々をみて「自分の母はまだ自宅で看れる」と思い帰りました。

ほぼ毎日デイサービスを利用して仕事に行っていましたが、仕事の終了時間と母が帰宅してくる時間が合わず一人で留守番をしている事がとても心配でした。

一年半前に小規模多機能のことを聞き、現在利用しています。仕事のシフトも気にならず、それに合わせて「泊まり」「通い」を組み入れてもらい安心して母の介護ができています。

できる限り在宅生活を…と思っているところです。

## 家族と本人のあいだで

岡山県・Kさん 54歳 女

ケアマネジャーとして認知症の利用者、そして家族に関わっています。家族は、施設入所を希望しますが、本人は家を希望し、

その狭間で悩みながら、最終的には家族の希望の施設へと本人は入所していきます。

かつて、私も夫の身内を施設に入所させた身。どちらの気持ちもわかるので、気持ち的に辛いと思うことが多いのですが、少しでも本人の気持ちと家族の気持ちに寄り添いながら、家での生活を続ける支援が出来るよう、いろいろな情報を得ていきたいと思っています。

## 終末期ケアに 悩んでいます

京都府・Hさん 78歳 男

特養で看取りをしています。認知症末期の医療をどこまでやるべきか悩んでいます。終末期ケアに関して本人の意思があらかじめわかっているならば、家族の精神的な負担も少なくなると思います。

しかし、意思表示の可能な間に終末期ケアについて、本人の意思を確認するのはなかなか難しいことだと思います。家族で何かの機会に話し合っておくことが必要だと思います。

## 力を借りたい

神奈川県・Oさん 76歳 女

アルツハイマー型認知症の70歳の夫を介護しています。介護者である私に心臓病の持病があり、通院中です。

最近、夜中に度々起こされて睡眠不足になり、離れて住む娘から「一人で頑張れないでしょ。介護保険を申請して精神的にも助けてもらうことが大切!」と言われました。皆さんのお力をお借りしたいと思っています。

お待ちしております!

■お便りで紹介した人へのお返事を「家族の会」編集委員会宛にお寄せください。

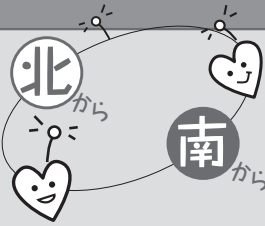
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内  
FAX.075-811-8188 Eメール office@alzheimers.or.jp



## 123 支部だよりにみる

# 介護体験

今回は  
滋賀県



「そばで介護したい、でもできない  
～経鼻栄養チューブをはずせない～」

滋賀県支部 大津市 小林はるえ(仮名)

滋賀県支部版  
(2013年8月号)



### ●夫の脳出血

18年前、私が実母の介護で実家に滞在していたある日、ひとり暮らしになっていた夫が脳出血を起こし、訪ねてきた妹が見つけるまでひとりで倒れていました。13時間に及ぶ開頭手術を受け、重度心身障害者となって退院し、その後は私が介護をして、ふたりで暮らしていました。その頃、夫が「(脳出血の時に)誰かがそばにいてくれたらなあ」と言ったことがあり、それを思い出すたびに私はつらい気持ちになります。

### ●経鼻チューブの挿入

夫が2回の肺炎を経て3回目の肺炎で入院した時、医師から、この肺炎は誤嚥によるものだからと、経鼻チューブの挿入を勧められました。今はそれを承諾したことが悔やまれるのですが、その時はチューブからの栄養で「元気になる」と言われて決心しました。それまでは「延命処置はしない」と決めていたのですが、元気になればチューブをはずせると思ったのです。

もう一つ悔やんでいることがあります。それは、特養入所の機会があったのに「もう少し家で看たい」と断ってしまったことです。経鼻チューブになる以前のことです。

### ●転院を迫られる

今、夫は自宅近くの病院に入院していて、私は毎日歩いて通っています。夫は話すことはできませんが、私が顔を見せると表情を輝かせます。車椅子で屋上に連れ出し、私が童謡を歌うと途中から一緒に歌えることがあり、そんな時の夫の声はしっかりしているのです。私がそばにいと、こうして夫のリハビリを助けることができる、こ

れをずっと続けたいと思います。でも病院からは「医療の必要がない」という理由で転院を強く促されます。勧められている転院先はとても遠く、電車を乗り換え、さらにバスに乗り継がねばなりません。自宅で介護できない私がそんな所へ毎日通えるとは思えません。

タクシーの利用も考えましたが、出費がかさみ、今後の生活が心配です。マスコミでは「高齢者にお金を使ってもらおう」というようなことが言われ、その方向での制度も導入されていますが、多くの高齢者は安心してお金が使えるような状況にはありません。

### ●夫はこの状況を喜んでいるだろうか

経鼻チューブがはずせて口から食べることができるようになれば、市内の特養にもう一度申し込んで入所できる可能性も出てきます。強く願うのは、特養などの高齢者施設には、入所申込時に胃ろうや経鼻チューブを設置していても、区別なく受け入れる体制を作っていただくことです。病院にチューブ抜去の検討のお願いをすると、「肺炎になってもいいのか?」と言われます。私には「いいです」という答えができません。

私の、そして夫の希望は「口から食べる」「家から近い所で療養」「できれば在宅介護」ですが、今はどれも叶えることができません。夫は不本意なこの状態で生きることが喜んでいるのだろうかと考えて眠れない日々です。何もかも私が悪いのだと思うことがあります。それでも、どんなことをしても、私が生きて夫を見送らねばなりません。遠くへ転院してからの夫と私の生活を思うとたまらなく不安です。つらい毎日です。



# 介護保険 後退の背景に 「国民会議」報告 その中身を見る

社会保障情報  
新連載 1

介護保険制度のあり方を審議する社会保障審議会介護保険部会の議論が大詰めを迎えています。厚労省は9月以降、この部会に、要支援を外すことや利用料の2割への引き上げなど制度を後退させる提案を次々に行っていますが、その説明文書の最後には必ず「社会保障制度改革国民会議報告書」の該当部分が記載されています。つまり、厚労省の提案の根拠として同報告書が使われているのです。

では、その報告書とはどんなものなのでしょうか。5回連載で見てゆきます。

## 「社会保障は自助の共同化」の すり替え

### ■「給付の重点化、制度の効率化」

国民会議は、昨年の8月に消費税増税方針と同時に成立した「社会保障制度改革推進法」に基づき設置された機関で、同法の考え方に則り改革のあり方を審議して今年の8月に報告書を総理大臣に提出しました。そもそも「推進法」そのものが、「家族相互及び国民相互の助け合い」とか「給付の重点化、制度の効率化」「主要な財源には消費税を充てる」などと書かれていますから、国民会議報告書もその方針に添った内容となり、「家族の会」がこれまで危惧を表明してきた内容が網羅されたものとなっています。

報告書は、A4判約50ページで、冒頭に清家篤同会議会長の「国民へのメッセージ」が付いています。会長以下15名の委員です。

報告書は2部構成で、第1部は社会保障制度改革の全体像、第2部は社会保障4分野（少子化対策、医療・介護、年金）の改革、です。

### ■「要支援は市町村に移行」「利用料引き上げ」…

介護保険に関することは、この「第2部、Ⅱ医療・介護分野の改革」で述べられているのです。要支援外しについては「要支援者に対する介護予防給付について、市町村が地域の実情に応じ、住民主体の取組等を活用しながら柔軟かつ効率的にサービスを提供できるよう、地域包括推進事業に移行させていくべきである」。利用料の引き上げについては「一定以上の所得のある利用者負担は、引き上げるべきである」と述べています。

また、特養ホームについては「中重度者に重点化を図り」、デイサービスについては「重度化予防に効果のある給付への重点化」と述べているのです。

さらに、2005年の制度改定で新たな負担となったいわゆるホテルコスト（食費、居住費の自己負担）を低所得者に補助している「補足給付」についても、「保有する資産や預貯金が保全される」として、預貯金だけでなく「遺族年金等の非課税年金や世帯分離された配偶者の所得等を勘案するよう」求めているのです。

厚労省はこの報告書に基づき、要支援外し、年収270または280万円以上（被保険者5人に1人）者の利用料2割負担、特養入所は要介護3以上、預貯金1000万円以上の者の補足給付外しなどを提案しているのです。

### ■「社会保障を後退させる「自助の共同化論」

私がこの報告書でもっとも見逃せないと思うのは、「第1部、2 社会保障制度改革推進法の基本的な考え方、(1)自助・共助・公助の最適な組合せ」の中で述べられている「日本の社会保障制度においては、国民皆保険・皆年金に代表される『自助の共同化』としての社会保険制度が基本であり…」の一節です。介護保険は自助が集まったものではありません。高齢社会を前にして国が社会福祉の一環として作ったものです。制度創設にあたって、「税か保険か」の議論があったのは、国の責任でやるのが前提で、負担のあり方が問われたのです。自助の共同化論は、明らかにすり替えで、社会保障を後退させるものです。（高見国生）

国民会議報告書全文は、「国民会議報告書」で **検索**  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kokuminkaigi/pdf/houkokusyo.pdf>



## 今月の本人 藤田和子さん（52歳）

藤田和子さんは鳥取市生まれ。看護師として在職中の45歳の時に、若年性アルツハイマー病と診断され、その後退職。若年性認知症の問題をもっと知ってほしいと「若年性認知症問題にとりくむ会・クローバー」を設立し、代表として講演や執筆活動をしています。

9月28日京都で開催された世界アルツハイマーデー記念講演会で、「私が過ごしたい場所」と題して、講演しました。「認知症カフェ、つどい、デイサービス」そのどれもが認知症の人が過ごせる場ですが、本人が必要としている“場”



藤田和子さん（左）とサポーターの山根恒さん

とはどんなものかを考える視点を示された説得力のある、いいお話でした。

（編集委員長 鎌田松代）

## “利用者”から“生活者”へ、 「地域で一緒に暮らす認知症のある○○さん」への転換を

私が過ごしたい場所は、私のことを理解してくれる人がたくさんいる「人の場」であり、「決められた場所」ではないのです。認知症の人をサポートする場所を作るときには、何の目的で作るのかを明確にすることが大切です。

カフェは、病院の近くにあるといいですね。受診したときに目につく場所にあると「こんなところにあるんだ」と、受診したついでに行けます。この1ヵ月間にあったことを、「こんなことがあったの」「元気にしてた？」と、近況を語り合えます。収容するように人を集めるような扱いはいやです。

また、家族に病気への理解を促し、何をサポート

したらよいのかを教えてくれることも大切です。しかし、本人がまだ自

立した状態であるときに「介護は大変なんだ」と聞かされると、家族は「そんな風になるのだ。私にもできるだろうか」と不安になることもあります。

カフェは、認知症になっても希望が見出せるような場所だといいですね。「利用者」から「生活者」へ、「地域で一緒に暮らす認知症のある○○さん」への転換が重要です。



壇上で講演中の藤田さん



### ●「空白の期間」をつくらない（講演レジュメより）

支えるためには、早期発見・治療のこの時期から関わる“早期からの支援”が必要である。

「空白の期間」をつくらないための、「早期からの支援」の場として、多様性があり・生活圏域に一つあり・ありのままのあなたでOKの空気のあるカフェが機能すれば効果的。

## 情報交流の場

青森●12月22日(日) 午後1:00～3:00／弘前のつどい→社会福祉センター

埼玉●12月21日(土) 午前11:00～午後2:30／若年のつどい・越谷→越谷市中央市民会館

●12月25日(水) 午前11:00～午後1:00／若年のつどい・大宮(北区)→地域包括支援センター諏訪の苑

富山●12月7日(土) 午後1:00～3:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ

岐阜●12月15日(日) 午前11:00～午後3:30／各務原市つどい→ニッケかかみ野苑

愛知●12月14日(土) 午後1:30～4:00／元氣かい→東海市しあわせ村

滋賀●12月11日(水) 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→県立成人病センター職員会館

鳥取●12月3日(火) 午前9:30～11:30／江府町江尾の会→総合健康福祉センター

●12月22日(日) 午前11:00～午後3:00／にっこりの会→笑い庵カフェ&マルシェ

広島●12月7日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会東部→福山すこやかセン

ター

●12月14日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター

●12月28日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会西部→あいプラザ(廿日市市)

福岡●12月7日(土) 午前10:00～午後0:30／若年性認知症の人と介護家族のつどい→福岡市民福祉プラザ

熊本●12月7日(土) 午後1:30～4:00／若年期認知症のつどい→県認知症コールセンター

詳細は各支部まで